



2020年11月4日

各位

会社名 味の素株式会社
代表者名 取締役社長 西井 孝明
(コード番号 2802 東証第一部)
問合せ先 グローバル財務部長 水谷 英一
(TEL. 03-5250-8111)

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2020年7月30日に公表した2021年3月期(2020年4月1日～2021年3月31日)の通期連結業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせします。

記

1. 通期連結業績予想数値の修正(2020年4月1日～2021年3月31日)

単位:百万円

	売上高	事業利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益(円)
前回発表予想(A)	1,057,000	90,000	32,000	58.37
今回発表予想(B)	1,066,000	100,000	36,000	65.65
増減額(B-A)	9,000	10,000	4,000	
増減率(%)	0.9%	11.1%	12.5%	
(ご参考) 前期実績(2020年3月期)	1,100,039	99,236	18,837	34.37

2. 修正の理由

2020年7月30日公表の業績予想に対して、売上高、事業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益を修正いたしました。

売上高については、調味料・食品セグメント及び冷凍食品セグメントにおいて、新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)のグローバルでの拡大に伴い、家庭用製品の販売が内食需要の増加により前年を上回る一方で、外食向け製品の販売は回復傾向にあるものの前年を下回る状況が継続する見込みであり、足もとの環境下で当該影響の見直しを実施した結果、両セグメントの売上高は前回予想

を上回る見通しです。また、ヘルスケア等セグメントにおいては、電子材料及び医薬用・食品用アミノ酸の販売好調が想定を上回っている一方で、動物栄養事業等の販売が想定を下回っていることから、売上高は前回予想並みとなる見通しです。

事業利益については、ヘルスケア等セグメントにおいて、電子材料及び医薬用・食品用アミノ酸での販売増や採算性向上、経費の削減等により、同セグメントの事業利益は前回予想を上回る見通しです。また、調味料・食品セグメント及び冷凍食品セグメントにおいても、調味料及び冷凍食品の販売増、プロダクトミックス等による採算性向上、経費の削減等により、両セグメントの事業利益は前回予想を上回る見通しです。

親会社の所有者に帰属する当期利益についても、主に事業利益が前回予想を上回ることにより、前回予想を上回る見通しです。

これらの結果、売上高、各段階利益ともに前回予想を上回る見通しとなりました。

なお、本年度中において、COVID-19 が経済活動や当社の業績に与える影響を合理的に見通すことは依然困難であり、今後の感染状況や経済等への影響を継続して注視し、業績予想の見直しが必要になった場合には、速やかに開示することといたします。

業績予想の前提となる為替レートについては、1ドル＝105.00円で設定しております。

- (注) 1. 当社グループは、IFRS の適用にあたり、投資家、取締役会及び経営会議が各事業の恒常的な業績や将来の見通しを把握すること、取締役会及び経営会議が継続的に事業ポートフォリオを評価することを目的として、「事業利益」という段階利益を導入しております。当該「事業利益」は、「売上高」から「売上原価」、「販売費」、「研究開発費」及び「一般管理費」を控除し、「持分法による損益」を加えたものであり、「その他の営業収益」及び「その他の営業費用」を含まない段階利益です。
- (注) 2. 当社グループは、前連結会計年度より、包材事業を非継続事業に分類しております。従来より非継続事業に分類している物流事業とあわせ、非継続事業からの利益は四半期連結損益計算書上、継続事業と区分して、売上高、事業利益、税引前四半期利益は継続事業の金額を表示しております。
- (注) 3. 上記業績予想は、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しています。実際の業績は、今後様々な要因やリスクによって上記予想とは異なる結果となる可能性があります。

以 上